

環境変化を捉え、事業機会を最大化、 持続的な企業価値向上を追求。

代表取締役 社長執行役員

田中 信二



当社を取り巻く事業環境は、米国の関税政策や為替の影響などにより日々変化しています。そうした変化に柔軟に対応し、事業機会を最大化し、企業価値向上に結び付けることが私のミッションです。

2025年度上半期は、環境意識の高まりにより今後の需要拡大が見込まれるリサイクル関連設備の投資を実施しました。また、成長著しい航空宇宙・防衛分野においては、日本最大規模の厚板焼入れ材製造設備の導入も決定し、事業機会を捉えるための施策を進行中です。さらに、お客様のニーズにワンストップで対応できる体制の効果が現れ始めており、今回の設備増強効果と相まって、当社にとって大きなビジネスに成長することが期待できます。

2025年度上半期の業績^{※1}は、主力製品である缶材の需要が北米を中心にグローバルで好調に推移したことから、売上収益は前年同期比530億円の増収となりました。一方、原材料価格の高止まりや、為替変動の影響などにより、事業利益、営業利益、当期利益^{※2}はそれぞれ前年同期比で減益となりました。しかし、下半期は国内での価格改定の浸透や、米国での事業利益の拡大を見込んでいます。このような状況を受け、通期業績予想^{※1}は、売上収益11,000億円、事業利益460億円、営業利益550

億円、当期利益^{※2} 230億円と見込んでいます。

2025年10月1日には株式分割(1株を4株に分割)を行い、個人投資家の皆様にも投資しやすくすることで、株式流動性を向上させ投資家層の拡大を図っていきます。今後も企業価値向上と資本市場との対話に努め、皆様に投資していただける企業を目指します。なお、1株当たりの配当金^{※3}は、当期利益の通期予想の上方修正を反映し、期末配当金を期初予想から2円増配し、年間配当金を42円(第2四半期末20円、期末22円)とする予定です。

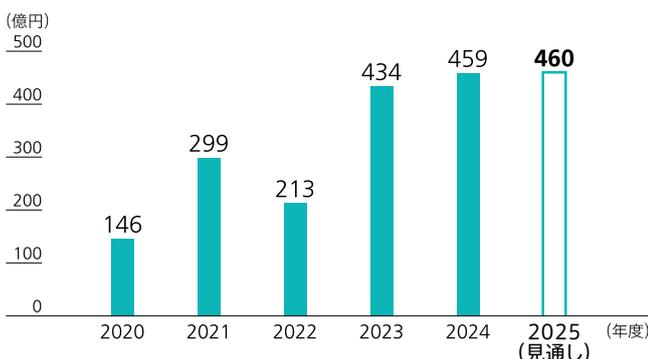
また、PBRについては、2025年9月末時点で、0.98倍となりました。2022年度末は0.51倍だったことを考えると、着実な前進を感じています。この背景には、地球環境課題の解決に貢献するアルミニウム素材の将来性や、当社の成長への期待があると考えています。環境意識の高まりは、先日訪れた大阪・関西万博でもその流れを実感しました。このような事業環境の追い風を逃さず、かつ市場のニーズを的確に捉えることが重要です。私自身がしっかりとその舵取りをし、さらなる企業価値向上の実現を目指していきます。今後とも当社にご期待いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

※1 上半期業績、通期業績予想(2025年11月11日の決算発表にて上方修正を公表)は決算ハイライト(表面左頁)をご覧ください。

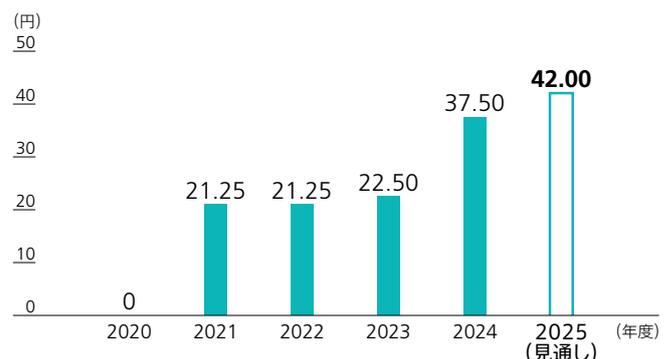
※2 親会社の所有者に帰属する中間利益・当期利益

※3 10月1日実施の株式分割を考慮後

事業利益推移



1株当たり配当金(株式分割実施後)



中期経営計画の進捗

第4次中期経営計画の初年度となった2024年度は、旺盛な缶材需要を捕捉できたことにより、中期経営計画で掲げる全ての財務指標で前年度を上回り、目標の達成に向けて着実に前進しました。

重点方針レビュー

1. 成長戦略・付加価値戦略

価値創出拡大による収益の最大化と収益率の向上を目指し、重点活動分野として①リサイクル推進、②素材+加工ビジネスの拡大、③先端分野のサプライチェーン安定化への貢献、④新領域の拡大の4つを定め推進しています。EV市場拡大の遅れにより、「素材+加工ビジネスの拡大」が伸び悩んだものの、戦略の中心となる「リサイクル推進」による増益貢献が、計画を上回る進捗となりました。また、順調な需要拡大が見られる航空宇宙・防衛分野をターゲットとする「先端分野のサプライチェーン安定化への貢献」においては、需要捕捉に向けた戦略投資を前倒して行い、この先の収益向上に向けた準備を進めました。

2. 事業の強靱化

環境変化への対応力強化、資産効率化、自動化・無人化(安全性・生産性向上)により、事業の強靱化を図っていく計画です。市況変化による影響に対しては、すでにサーチャージを導入するなど対策を講じていますが、第4次中期経営計画(以下第4次中計)発表後に生じた事業環境変化に対しても迅速に施策を講じ、収益力の維持・向上に努めています(右記参照)。また、仕入れ、販売、代金回収までのキャッシュ・コンバージョン・サイクルを短縮するなど資産効率化に取り組みとともに、生産工程における自動化・無人化、ホワイトカラーの業務効率化を推進し、筋肉質な体質づくりを進ませました。

3. 基盤の強化

多様な人材の獲得や育成、エンゲージメント向上、技術・ブランドなどの無形資産の獲得・強化・活用などにより、価値創出と安定した事業運営を支える基盤を強化していく考えです。そのなかでも、とりわけ事業運営に欠かせない人的資本については、当社の人材に対する考えや施策を整理し、「UACJピープルステートメント」と人材戦略を体系化した「人的資本経営の全体像」を策定しました(右頁参照)。また、価値創出の源泉となる技術・ブランド力強化、DX投資・デジタル活用、事業間・部門間連携の推進など、基盤強化を着々と進めています。

第4次中計での4ヵ年進捗

	進捗
既存分野の数量増	◎
① リサイクル推進	◎
② 素材+加工ビジネスの拡大	△
③ 先端分野のサプライチェーン安定化への貢献	○
④ その他(新領域の拡大を含む)	○
インフレ影響等に伴うコスト増加	△
合計	○

◎: 計画を上回る進捗 / ○: 計画通り / △: 計画を下回る進捗

財務目標



※ Adjusted EBITDA=EBITDA - 棚卸資産影響等

第4次中計発表後の事業環境変化と施策

2024年5月の第4次中計発表後の事業環境変化に対しては、柔軟に対応することで中計目標の達成を目指します。

主力の缶材や航空宇宙・防衛分野など、好調な分野に戦略投資を行い、拡大する需要を捕捉します。また、リサイクル関連投資を推進し、環境価値創出を強化します。

米国関税政策の影響は、現状では限定的なものの、リスクとして認識し、状況が変化した場合は迅速に対応します。

第4次中計発表後の新たな事業環境変化
 ・人件費、諸物価の急速な高騰 ・米国政権交代による関税政策の転換
 ・EV化需要の後ろ倒し

事業認識と施策

2024年度 (実績)	国内: 缶材、厚板等の販売が順調に進捗し、収益を確保 海外: 北米を中心に、グローバルにおいて継続する好調な缶材需要を捕捉
2025年度 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡大する市場を捕捉 →環境意識の高まり、また人口増・経済発展による世界的な缶材需要の拡大 →中長期的に成長が見込まれる自動車関連分野の拡大 ● 原材料の価格の高騰を吸収する販売価格改定の交渉を継続 ● 2027年度目標達成を見据えた戦略投資の仕込み (米国関税政策はリスクとして認識するも、具体的な業績への影響は限定的と見込む)
2026 ~ 2027年度 (予測)	<ul style="list-style-type: none"> ● 缶材、航空宇宙・防衛材、半導体製造装置向け製品の需要捕捉 ● 米国熱延増産やリサイクル設備等、戦略投資の収益貢献 ● UACJリサイクル率: 2030年度目標80%を目指し、環境価値を創出

さらなる成長に向けて

第4次中計では、当社を付加価値提供企業へと発展させ、稼ぐ力の向上を図り、長期経営ビジョン実現の蓋然性を高めます。その過程で生じる事業環境変化に対して迅速に対応し、確実に目標を達成させることはもちろん、旺盛な需要を着実に捕捉する施策を講じ、さらなる事業成長、企業価値向上を図っていきます。

Adjusted EBITDAの成長イメージ



企業価値に繋げるピープルステートメントと人的資本経営の全体像を策定

新たに策定したUACJピープルステートメントと人的資本経営の全体像に則り、働く一人ひとりのWell-being向上と人材力・組織力の向上による好循環を通じて、企業価値向上を図ります。

人を育み、人を繋いで、軽やかな未来を創る

— UACJグループの人的資本についての考え方 —

UACJグループの未来を創る源泉。それは、UACJグループ理念に共鳴して働くわたしたち一人ひとりにほかなりません。

UACJグループの持続的な成長と、軽やかな世界の実現のために、まず、働くわたしたちの「Well」を高めること。その「Well」を、繋ぎ、広げること。誰もがイキイキと輝き、成長を共に喜びあえる最高のチームとなること。

そんな、UACJグループの「人づくり」「組織づくり」とそれを支える「働く環境づくり」を進めていきます。

共に育みあい、繋がりながら、軽やかな未来を、みんなで一体となって実現していきましょう。



UACJグループの成長を支える、働く一人ひとりのWellと人材・組織づくりの好循環

決算ハイライト(連結)

第2四半期累計業績

	2024年度	2025年度	前年同期比
売上収益	4,871億円	5,401億円	530億円
事業利益 ^{※1}	300億円	169億円	△131億円
棚卸資産影響等	57億円	57億円	0億円
営業利益	357億円	226億円	△131億円
当期利益 ^{※2}	167億円	74億円	△93億円
Adjusted EBITDA ^{※3}	487億円	362億円	△125億円

通期業績

	2024年度	2025年度 (見通し)	前年度比
売上収益	9,988億円	11,000億円	1,012億円
事業利益 ^{※1}	459億円	460億円	1億円
棚卸資産影響等	115億円	90億円	△25億円
営業利益	574億円	550億円	△24億円
当期利益 ^{※2}	280億円	230億円	△50億円
Adjusted EBITDA ^{※3}	840億円	855億円	15億円

※1 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したものの
 ※2 親会社の所有者に帰属する当期利益
 ※3 EBITDA＝棚卸資産影響等

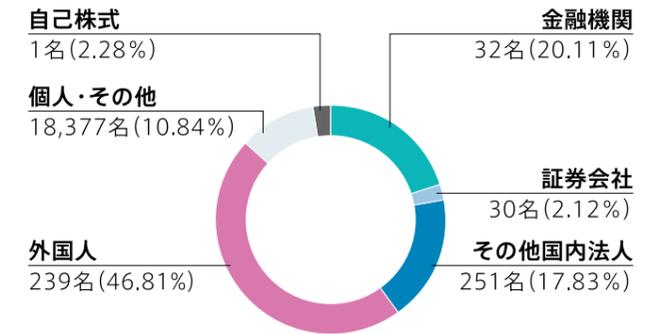
株式情報(2025年9月30日現在)

(注)2025年10月1日付で株式分割(1株を4株に分割)を行っていますが、各株式数は分割前のものです。

基本情報

上場市場	東証
証券コード	5741
株式の売買単位	100株
発行可能株式総数	170,000,000株
発行済株式総数	46,328,193株 (※自己株式1,060,754株を含む)
株主数	18,930名
決算期日	3月31日
定時株主総会	6月
株主確定基準日	毎年3月31日 (中間配当を行う場合の配当基準日は毎年9月30日)
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
公告方法	電子公告 https://www.uacj.co.jp/ (やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します)

所有者別の構成比率(株式数比率)^{※1}



※1 株式数比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

大株主

株主名	持株数 ^{※2} (100株)	持株比率 ^{※3} (%)
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	80,971	17.88
古河電気工業株式会社	64,365	14.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	46,505	10.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	17,709	3.91
MLI FOR SEGREGATED PB CLIENT	14,678	3.24
ECM MF	14,500	3.20
株式会社UACJ	10,607	—
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	9,879	2.18
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	9,210	2.03
UACJグループ従業員持株会	7,767	1.71

※2 100株未満を切り捨てて表示しています。
 ※3 自己株式(1,060,754株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株主通信についてのアンケートにご協力ください!

株主の皆様のご意見・ご要望を株主通信および今後の活動などの参考とさせていただきますため、アンケートを実施いたします。(所要時間:5分程度)お手数ではございますが、アンケートにご協力をお願いします。
 アンケートご回答の締め切り:2026年1月9日(金)
 ※アンケート回答にかかる通信料は、株主様のご負担となります。

こちらより
 アンケートサイトにアクセスし、
 ご回答をお願いします
<https://questant.jp/q/XK1TSAFA>



株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
 東京サンケイビル
 Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<https://www.uacj.co.jp/>



エコマーク商品
 古紙パルプ配合率60%
 19 107 004
 王子製紙株式会社



“UACJ”、“UACJ”は、日本、米国、中国および欧州連合商標(EUTM)などにおける株式会社UACJの登録商標です。

NEWS お知らせ

「日経・東証IRフェア2025」に出展

当社は、株主・投資家の皆様との双方向コミュニケーションを重視する考えから、昨年に引き続き、日本最大級のIRイベント「日経・東証IRフェア2025」に出展しました。各種説明会に登壇した社長 田中や取締役 岡田の話聞いた参加者の皆様からは、アルミニウム素材の将来性やリサイクルをはじめとした環境価値の観点から、当社の成長に期待いただく声が多く寄せられました。



日本最大規模の厚板焼入れ材製造設備を導入

当社では、航空宇宙・防衛分野が成長市場として見込めることから、昨年、事業本部を立ち上げました。そして、2025年5月に、この分野で使われる厚板焼入れ材の日本最大規模の製造設備を深谷製造所内に導入することを決定しました。この設備の稼働により、製造能力は現状と比べ2倍となります。2027年下期に稼働開始を予定しており、成長市場のニーズを確実に捉えていきます。



© JAXA

「ぐるっとサステナ」を公開しました

新たに公開した「ぐるっとサステナ」は、右の二次元コードでリンクしたページからご覧いただけます。



統合レポートを発行しました

今年も統合レポート「UACJ Report 2025」を発行しました。右の二次元コードでリンクしたページからご覧ください。

